

6. 三歳児健診の際異常を認めた症例の診断と治療の結果

川城 信子* 古賀慶次郎*

1. はじめに

東京都では平成2年7～8月にパイロットスタディを都内4保健所の協力を得て行なった。検診の前に先立って、アンケート、ささやき声による聴き取り検査、指こすり音聴き取り検査を家庭でおこなってもらってあった。保健所では tympanometry を行ない、さらに全員に耳鼻咽喉科医によって耳、鼻、咽頭の診察を行なった。その際アンケートをチェックし、不明な点に関して、さらに詳しい問診も行なった。この様な検査で異常の発見された三歳児は要精検とされた。当国立小児病院を精密検査の目的で受診したのは13名であった。

2. 対 象

保健所の検診で要精密検査とされ、国立小児病院を受診したのは13例であった。この13例の検査の結果と診断、経過について報告する。

3. 結 果

平成2年8月から平成3年6月に受診した13例である。男子9例、女子4例であった(表1)。

1) 受診時の主訴と診断は次のようである。

難聴の疑いで受診した8例の結果

……………両側滲出性中耳炎	4例
……………左高度感音難聴	1例

構音障害 1例

異常なし 2例

滲出性中耳炎の疑い 3例

……………両側滲出性中耳炎 3例

言葉の遅れ 1例

……………言語発達遅滞 1例

tympanoの形が悪い 1例

……………異常なし 1例

13例の診断は両側性滲出性中耳炎 7例

左高度感音難聴 1例

構音障害 1例

言語発達遅滞 1例

異常なし 3例

であった。

2) 検査内容について

tympanometry を施行したのは13例中12例、24耳であった。

その中A型を示したのは7耳

C型を示したのは4耳で1耳は滲出性中耳炎であった。

B型を示したのは13耳で全例滲出性中耳炎の所見であった。

標準聴力検査は1例、遊戯聴力検査2例、peep show 4例、COR 3例と計10例に聴力検査を施行した。左右別の聴力検査を施行し得たのは3例であった。peep showの条件付けが困難でCORを施行したのは3例であった。

*国立小児病院耳鼻咽喉科

表 1

カルテNo	氏 名	生年月日	受 診 日	診 療 内 容	経 過	診 断
031587	福 優 子	62.7.9	2.8.16	主訴：伝音難聴 遊戯聴力検査 8.16 再検査 10.1 tympano：異常なし	検査結果異常なし 10.1 急性中耳炎 抗生剤投与	異常なし
132872	中 里	62.7.1	2.9.11	主訴：左難聴 遊戯聴力検査左難聴の疑い ABR：9.19 左高度難聴。 tympano：A	9.19 以後来院せず	左高度感音難聴
132127	岡	62.6.22	2.8.14	主訴：難聴 COR：30dB tympano：両耳B型 鼓膜発赤 鼓膜切開し滲出液+	8.21 好転	滲出性中耳炎
132226	栗 享	62.6.15	2.8.16	主訴：言葉の遅れ COR：30dB	聴力正常 言葉については心配なし	単純な言語発達地帯
132328	中 遼	62.8.20	2.8.20	主訴：tympanoの形が悪い peep show：20dB tympano：右C左A 右鼓膜軽度発赤	様子をみてよい	異常なし
132775	岩 友	62.4.20	2.9.6	主訴：口呼吸、難聴 両鼓膜混濁発赤 アデノイド扁桃肥大 tympano：両側B 標準聴力検査：右30dB左10dB	11.8 咽頭口蓋扁桃 摘出術、鼓膜切開 3.1.29 鼓膜切開	咽頭口蓋扁桃肥大 滲出性中耳炎
131995	松 祐	62.1.13	2.8.9	主訴：扁桃肥大 滲出性中耳炎 咽頭口蓋扁桃肥大、滲出性中耳炎 tympano：右C左B	10.29 咽頭口蓋 扁桃摘出術。呼吸改善 滲出性中耳炎好転	咽頭口蓋扁桃肥大 滲出性中耳炎
131972	村 隆	62.6.9	2.8.9	主訴：滲出性中耳炎 鼓膜混濁 tympano：両B型 鼓膜切開(2回)	4.30 咽頭口蓋扁桃 摘出術	咽頭口蓋扁桃肥大 滲出性中耳炎 副鼻腔炎
132366	鈴 力	63.1.29	2.8.21	主訴：難聴 tympano：両B型 口蓋裂 副鼻腔炎	鼓膜切開2回	蓋裂 副鼻腔炎 滲出性中耳炎
131725	佐 悠	62.6.14	2.7.30	主訴：滲出性中耳炎 言葉がはっきりしない 鼓膜混濁、tympano：B COR：55dB	鼓膜切開2回 ABR：R50dB L30dB なお要観察	滲出性中耳炎 言語の遅れ
040979	湊 輔	63.3.3	3.4.18	主訴：難聴 鼓膜混濁 tympano：B型 peep show：20dB	鼓膜切開2回 なお要治療	滲出性中耳炎
124888	織 枝	63.4.14	3.5.22	主訴：難聴 言葉がはっきりしない peep show：30dB tympano：A型	聴力、言語問題なし	問題なし
139380	中 古	63.3.7	3.6.10	主訴：難聴 構音障害あり(き、は、ら行) tympano：C型 peep show：	言語外来紹介	構音障害

ABRを施行したのは2例であった。その中1例は片側感音難聴の確定診断のために施行した。他の1例は滲出性中耳炎の上に言葉の遅れもあり、CORが55dBと閾値上昇があるために施行した。ABRは右50dB、左30dBであった。

3) 治療について

滲出性中耳炎7例にたいしては外来にて鼓膜切開を施行した。滲出性中耳炎が1回の鼓膜切開で好転したのは1例のみであった。アデノイド扁桃肥大があり咽頭口蓋扁桃摘出術を施行したのは3例であった。2例は上気道狭窄症状を随伴していた。手術後滲出性中耳炎が好転したのは2例である。他の1例はなお観察が必要である。口蓋裂、副鼻腔炎が合併していたのが1例であった。この症例は他病院にて口蓋裂の手術予定である。残り2例は鼓膜切開2回施行しても治癒に致らず、反復しており、なお治療を要する。tubingを行なった症例は現在のところない。

左高度感音難聴の症例には説明し、経過観察のみとした。

構音障害の症例は言語治療の面から指導の予定である。

4. 考 察

1) 三歳児検診の方法

アンケートと家庭での聴き取り検査をチェックし、さらにtympanometryで異常の認められる症例のみをリストして耳鼻咽喉科医が診察する方法と、三歳児全員を診察する方法が考えられる。可能ならば三歳児全員を診察する方法が良い。理由は可及的にとりこぼしを少なくしたいという理由からである。診察の前にアンケートをチェックし、家庭での聴き取り検査の結果

をチェックし、tympanometryの結果をみながら診察する必要がある。必要に応じてさらに詳しい問診もおこなえる。また、耳鼻咽喉科の疾患そのものが耳、鼻、咽頭の関連で生ずるから、総合的な診察は必定と考える。

tympanometryは滲出性中耳炎の発見に非常に有効である。今回、発見され受診した滲出性中耳炎7例中、1回の鼓膜切開で好転したのは1例で、他の6例は反復し、難治性であった。これらの滲出性中耳炎の症例は家庭で気付かれておらず、三歳児検診の成果であると評価したい。

2) 精密検査を必要とする三歳児のうけいれ側の問題

難聴のために紹介されてきた時に聴力検査を施行する事になる。三歳児に標準聴力検査を行うことはまず困難である。遊戯聴力検査、peep show、COR検査の装置が必要である。また、これらの器械を使用して三歳児の聴力検査を行なえる人力も必要となる。今回、自験例ではABRを施行した症例が2例あったことから考えて、時には聴性脳幹反応検査も必要となる。うけいれ側の施設設備の問題と人の問題が生じてくる。全国レベルで施行された時には受診する側の地理的問題も生じてくると考えられる。三歳児を検査し、また治療できる理想的な施設と人の確保が望まれる。

5. ま と め

1) 精密検査のために受診した13例の結果は、滲出性中耳炎7例、左高度感音難聴1例、言語発達遅滞1例、構音障害1例、異常なし3例であった。滲出性中耳炎の7例の中3例にはアデノイド扁桃肥大をともっており、手

術を要した。1例は口蓋裂，副鼻腔炎を合併した。

2) 聴力検査は標準聴力検査1例，遊戯聴力検査2例，peep show 4例，COR 3例であった。ABRを2例に施行した。

3) 三歳児検診の方法はアンケート，家庭での

ささやき声による聴き取り検査，指こすりの聴き取り検査にくわえて，三歳児全員の耳鼻咽喉科医による診察が必要である。

4) 要精密検査となった三歳児の精密検査と治療が施行できる設備と人の確保が望まれる。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1.はじめに

東京都では平成2年7~8月にパイロットスタディを都内4保健所の協力を得て行なった。検診の前に先立って、アンケート、ささやき声による聴き取り検査、指こすり音聴き取り検査を家庭でおこなってもらってあった。保健所では tympanometry を行ない、さらに全員に耳鼻咽喉科医によって耳、鼻、咽頭の診察を行なった。その際アンケートをチェックし、不明な点に関して、さらに詳しい問診も行なった。この様な検査で異常の発見された三歳児は要精検とされた。当国立小児病院を精密検査の目的で受診したのは13名であった。